

平成30年4月1日現在の世帯数と人口

(千種区 18.18Km²)

学区名	世帯数	人 口			対前月増減	
		総数	男	女	世帯数	人口
1 千 種	5,433	8,796	4,478	4,318	△ 16	△ 23
2 千 石	4,005	6,860	3,463	3,397	4	0
3 内 山	5,559	7,757	4,088	3,669	59	47
4 大 和	3,314	6,538	3,226	3,312	△ 77	△ 152
5 上 野	7,156	15,205	7,558	7,647	△ 84	△ 175
6 高 見	7,252	13,363	6,397	6,966	△ 6	△ 68
7 春 岡	6,819	10,872	5,760	5,112	8	△ 16
8 田 代	11,414	21,841	10,535	11,306	△ 59	△ 157
9 東 山	10,269	19,368	9,530	9,838	△ 37	△ 148
10 見 付	4,319	8,119	4,094	4,025	△ 35	△ 108
11 星 ケ 丘	3,506	6,874	3,109	3,765	△ 35	△ 101
12 自 由 ケ 丘	3,532	7,267	3,316	3,951	△ 2	△ 16
13 富 士 見 台	6,441	15,392	7,129	8,263	△ 34	△ 134
14 宮 根	3,857	8,350	3,986	4,364	16	△ 9
15 千 代 田 橋	3,644	8,503	3,989	4,514	△ 1	△ 26
千 種 区 計	86,520	165,105	80,658	84,447	△ 299	△ 1,086
H29.4.1	85,719	164,755	80,425	84,330	△ 169	△ 685
対 前 年 比	801	350	233	117	△ 130	△ 401
名 古 屋 市	1,092,939	2,311,132	1,140,577	1,170,555	2,722	△ 3,546
愛 知 県 (H30.3.1)	3,159,885	7,528,430	3,766,145	3,762,285	136	△ 2,244

前月中の増減内訳	自然動態			社会動態		
	出 生	死 亡	自然増減	転 入	転 出	社会増減
	110	129	△ 19	2,163	3,230	△ 1,067

【参考】

国勢調査千種区人口				これまでの最大人口	
昭和55年	166,837	平成12年	148,537	173,598 (昭和50年2月1日)	
昭和60年	163,762	平成17年	153,118		
平成2年	156,478	平成22年	160,015	これまでの最少人口	
平成7年	148,847	平成27年	164,696	146,727 (平成11年4月1日)	

注) 世帯数と人口は、平成27年国勢調査結果確定値を基礎とし、毎月の住民基本台帳人口の異動数を加減して推計したものである。

平成29年千種区の人口動向の概況

新年度となり、身の回りで転入・転出があった方も多いと思います。そこで今回は千種区の人口動向を考える上で重要な人口増減の内訳を見ていきたいと思います。

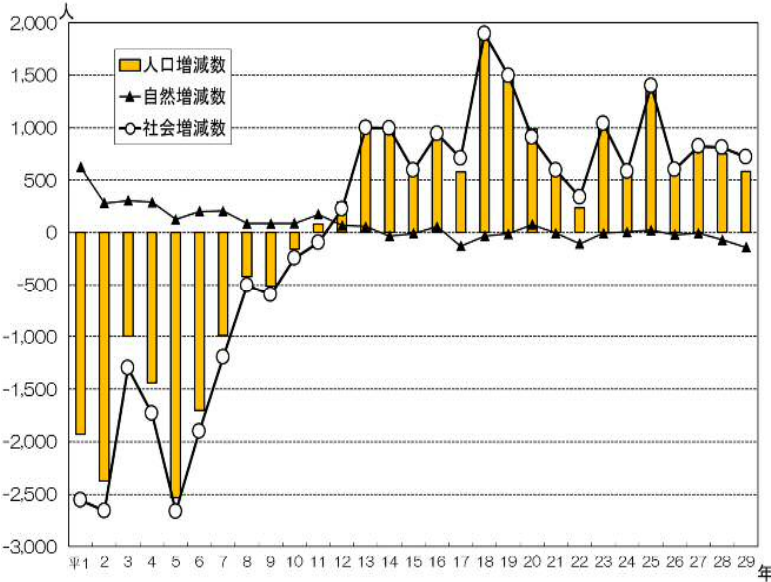


図1: 千種区の人口増減数、自然増減数および社会増減数の推移
(各年前年10月～当年9月)

平成29年10月現在の千種区の人口数は、前年同月比584人増の166,027人となっており、名古屋市16区のうち5番目の人口規模です。図1の人口増減数を見ると、千種区の人口は平成11年以降増加しています。社会増減数(転入数－転出数)は、平成8年度以降、人口増減数の変化にほぼ対応して変化しています。一方、自然増減数(出生数－死亡数)は年々ゆるやかに減少し、近年はわずかな増減を繰り返しています。従って、千種区の人口増減数の変化は社会増減数の変化に大きく依存していると考えられます。そこで、社会増減数およびこれを左右する転入数・転出数について見ていきます。

平成28年10月から平成29年9月までの千種区の社会増減数は723人の増加となっており(図2)、名古屋市16区の中で8番目となっています。社会増減数は前年比で91人減少しています。また、社会増減数は平成12年以降転入超過を維持しています。

また、人口移動数(転入数＋転出数)は26,743人で、16区中最大となっています。

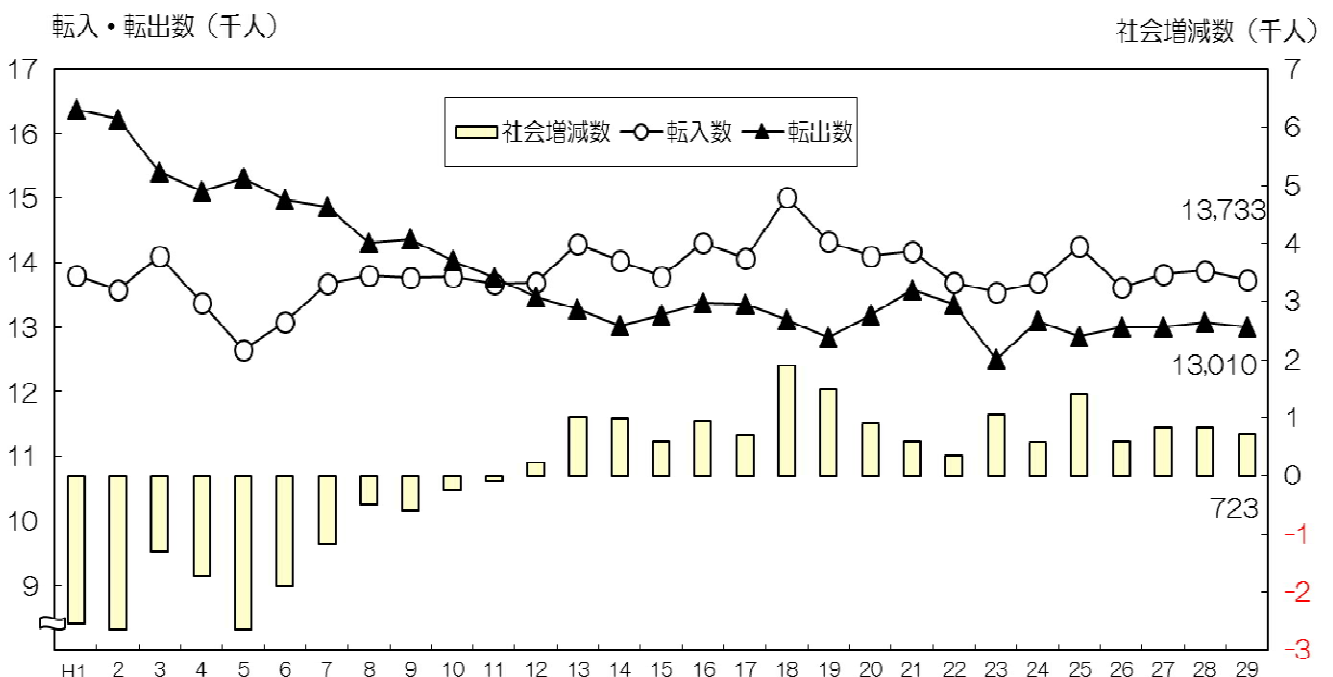


図2: 千種区の平成元年以降の社会増減数、転入数および転出数の推移(各年前年10月～当年9月)